

4 ばれいしょ収穫後の後作物栽培による稼ぐ力の向上

1 課題を取り上げた理由及び目的

ばれいしょ収穫後は、夏場の高温や干ばつ、台風などがあることから農地の有効活用がされておらず、また、梅雨から夏にかけて大雨による、ほ場からの土砂流出の要因になっている。そのため、さつまいもを後作として畑かんによる散水を行いながら、被覆資材の種類による収量性と収益性を検討し、ばれいしょ生産者の経営安定を図る。

2 実証の概要

(1) 対象作物：さつまいも(あまはすき)

べにはるかは糖度上昇のため貯蔵が必要で、貯蔵中の腐敗やアリモドキゾウムシの侵入、暑さでの萌芽等のリスクがある。そのため、早期出荷を出来る品種で検討した。

※あまはすきについて

- ・収穫直後から糖度が高く、ねっとりとした食感が特徴。
- ・一般的なサツマイモの収穫時期よりも早く、8月に収穫できる。
- ・サツマイモネコブセンチュウに強く、つる割病、黒斑病にも抵抗性がある。
- ・長期貯蔵には向かない。
- ・2021年に品種登録されているため、知名度が低い。

(2) 作 式：畦幅 100cm, 株間 38cm, 2,600本/10a

(3) 施 肥：無

(4) 防 除：適宜（基腐病，ナカジロシタバ，ヒルガオハモグリガなど）

(5) 区の設定：無マルチ(慣行)，白黒，黒，シルバー，生分解性



マルチ試験



雑草の発生



畝崩壊

【マルチのメリット】

- ・畝の作物の周りに雑草が畑に生えにくくなる。
- ・雨で土壌が削られてしまうことを防ぐ。また、土壌の肥料成分が流れてしまうことも防ぐ。
- ・畝を覆うことで土の乾燥を防ぎ適度な湿度を保つ。

【マルチのデメリット】

- ・経費及びマルチ張り，撤去の労力がかかる。

3 調査結果

※S:100g		個数(個/10a)			重量(kg/10a)						
		健全	規格外	計	健全	規格外				計	
						病害	虫害	裂開	形状		
白黒	S以上	8,026	1,579	9,605	2,205	639				2,844	
	S以下	2,895	0	2,895	168	0				168	
	計	10,921	1,579	12,500	2,373	639	70	0	126	443	3,013
黒	S以上	6,447	4,211	10,658	1,713	1,229				2,942	
	S以下	1,974	263	2,237	115	20				134	
	計	8,421	4,474	12,895	1,828	1,249	0	0	163	1,086	3,076
シルバー	S以上	7,500	1,711	9,211	1,804	543				2,347	
	S以下	2,237	395	2,632	141	25				166	
	計	9,737	2,105	11,842	1,945	568	0	0	205	363	2,513
生分解	S以上	9,474	3,026	12,500	2,005	803				2,808	
	S以下	2,895	395	3,289	183	30				213	
	計	12,368	3,421	15,789	2,188	833	0	0	178	655	3,021
無マルチ	S以上	10,132	658	10,789	1,938	121				2,059	
	S以下	3,816	0	3,816	241	0				241	
	計	13,947	658	14,605	2,179	121	0	0	45	76	2,300

- (1) マルチ区の単収は、無マルチ区に比べ全体的に多いが、規格外が多く発生し製品として出荷する量に差は無かった。無マルチ区では階級がS~Mを中心で小イモ傾向であった。
- (2) マルチ区での規格外は裂開、形状(丸いも、曲がり)によるものが多かった。
- (3) 軟腐の症状がごく一部にあったが、イモへの病害虫被害はみられなかった。



収量調査

4 考察

- (1) マルチの違いによる差は判然としなかった。
- (2) マルチ区での規格外の発生は、肥大が無マルチより進み、収穫前の裂開が多かったことや苗の植付にバラツキがあり、丸いも等の発生につながった。
- (3) アリモドキゾウムシの被害は見られず、ナカジロシタバ対策でドローン散布した薬剤等の効果が考えられた。

5 残された課題

- (1) 収量、品質の向上や規格外軽減のため、土塊が少なく高畝が整形できる土づくりなどの取組や規格外イモの活用方法の検討
- (2) 面積の拡大に向けた、畝立て、マルチ張り等を機械作業による労力軽減

6 実施者 前田 二郎